

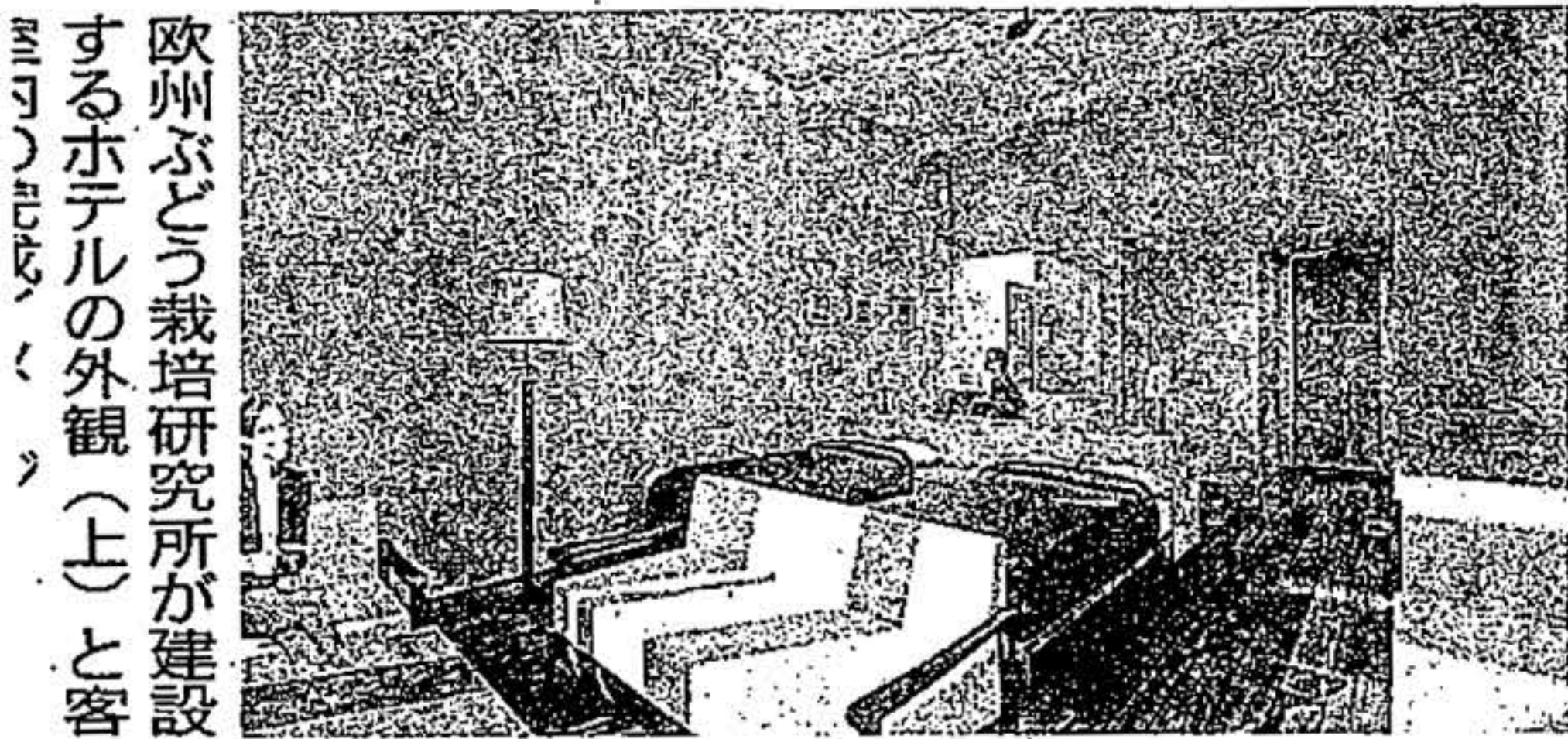
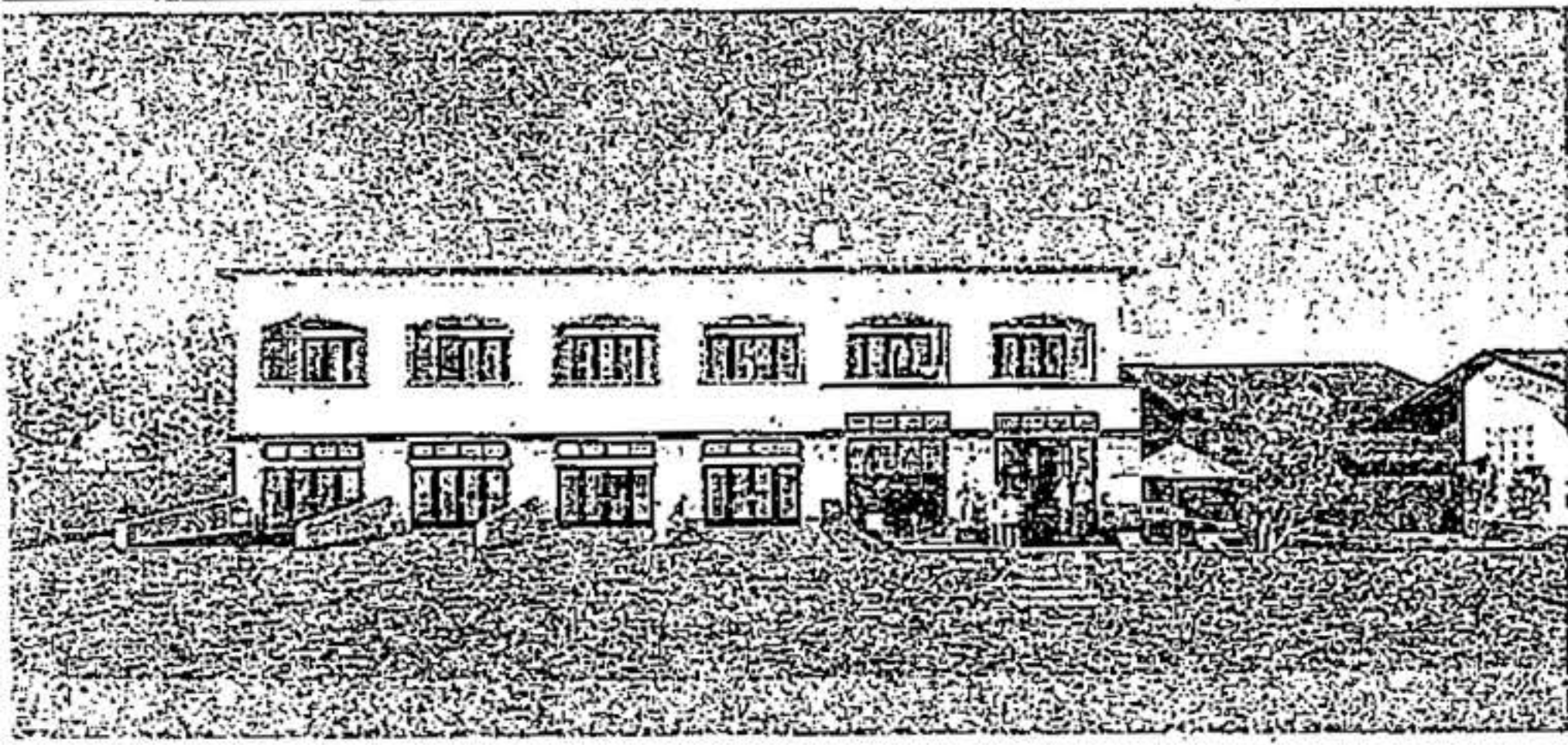
# 欧州ぶどう栽培研究所(新潟西蒲区)

## カーブドッチワイナリー内

# 新ホテル11月開業

## リゾート地化目指す

カーブドッチワイナリーを運営する欧州ぶどう栽培研究所(新潟市西蒲区)は11月、ワイナリー敷地内に全10室のホテルを新設する。既存のレストランや温泉施設などと一体でワインを核にしたリゾート地としての魅力を高め、首都圏を中心に誘客を図りたい考えだ。新ホテルの初年度の売上高は2億円を目指す。



欧州ぶどう栽培研究所が建設するホテルの外観(上)と客室(下)の様子。

ホテルはレストランやブドウ畑に隣接する土地に建設し、既に着工している。木造2階建てで、延べ床面積は約900平方メートル。部屋の広さは、1室35〜55平方メートルを計画している。インテリアは欧風とし、部屋ごとに家具などを変える。6月には先行予約の受付をスタートする予定だ。

ワインの本場フランスでみられる宿泊施設付きのレストラン「オーベルジュ」をイメージ。部屋からブドウ畑や角田山を望める眺めに

「ステイ トラヴィーニユ」。トラヴィーニユはフランス語を基にした造語で、ブドウ畑を抜けた先にあるワイナリーの宿という意味を含めた。価格はフルコースの夕食と自家製のパンやコーヒー、地元産農産物を使った朝食が付いて1泊4万円程度を検討している。同社は昨年、東京に直営レストランを開店し、JR新潟駅からワイナリーへの無料送迎バスも設けた。首都圏などのファンをカーブドッチワイナの産地に受け入れる体制を整えようと、ホテル建設を決めた。建設費4億円に加え、レストラン

など周辺施設のリニューアル費を含めた総投資額は5億円と見込む。ワイナリー敷地内の宿泊施設は、2009年に開業した温泉宿泊施設「ヴィネスパ」に続いて2棟目。トラヴィーニユは、ワイナリーを自当てに訪れる客に焦点を当て、リラクゼーションが売りのヴィネスパと役割分担する方針だ。周辺の地域、ワイナリーと連携し、ブドウ畑や地元の自然を生かした体験プログラムも検討している。今井卓社長は「ワイナリーの施設とソフト面の施策で一体的な魅力を高め、同社の18年7月期の売上高は5億5800万円。」

にいがた経済

BIZ NIIGATA